

4 技能を総合的・統合的に指導する児童英語教育研究 — 苦手な技能を克服させるための試行的実践 —

山崎千春

1 はじめに

1.1 問題の所在

児童英語の教材は4技能全般を伸ばすように構成されているにもかかわらず、児童には得意・不得意と感じる技能がある。しかし、教材は4技能が同じように伸びているという想定の下に課が進んでいき、難度も徐々に上がっていく。その結果、児童が苦手意識を持っている技能・領域を伸ばす機会は与えられないことになってしまう。一方で興味深いことに、自身が指導している児童の多くが、苦手意識を持っている技能・領域を伸ばしたいという意欲を持っている。この意欲を動機づけとして利用し、指導をしていくことは当然であるが、たとえば、往々にしてリスニングが弱い児童は、リスニング練習だけをしていればできるようになると思い込んでいる。自身の経験上、実際は、リスニングに必要な語彙や表現、文型を身につけるためにはリーディングが基礎となっており、その上でスピーキング練習をすることで、結果的にリスニング力が上がるということがわかっている。そこで児童にはリスニング力の基礎になるリーディングとスピーキングを練習させたいのであるが、この辺り、やる気を損なわず、こちらの意図する指導を実施する手順・指導方法、すなわち指導方略の確立が重要な課題となっている。あわせて、こういった指導方法、いつてみれば「急がば回れ」的な学習方法が効果的であることを、説得力を持って児童とその保護者に伝えられるようにすることが必要であり、当面の課題でもある。

1.2 研究の目的

上述の課題を解決するために、本研究における目的を以下の2つに設定する。

- (1) 学習者が伸ばしたいと思う技能を効果的に向上させるアプローチ方法を確立する。
- (2) ある技能を伸ばすには、他の技能を伸ばすことが有効であることを明らかにする。

1.3 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、本研究では以下の方法をとることとする。まず、アンケートを実施し、4技能中の得意・不得意を確認、また、それぞれに対する意識を調査する。次に、児童自身に伸ばしたい技能を選定してもらい、それに合わせて技能別の授業に参加してもらおう。先行研究を参考に技能ごとの教材を作成し、授業を行う。指導効果の測定のために、ロイロノートのアプリを使用して文章や音声の提出をしてもらう。「ロイロノート」とは、株式会社LoiLoが発売しているタブレット向けの教育支援アプリ（正式名称は「ロイロノートスクール」）で、写真・動画の共有や、「提出箱」を使って受講生が宿題を提出したり、指導者がそれを採点したりすることができる。また「資料箱」というクラウド上のフォルダには指導者が共有したい資料や動画を格納することができる。実際の授業で使用した資料や指導方法については、「2 技能別授業」で詳述することにする。

2 技能別授業

2.1 児童の概要と動機

小学4年生から6年生までの26名に、4技能に対する意識についてアンケート調査を実施した。アンケート内容及び結果は下記の通りである。

【4技能中の得意な技能と苦手な技能】

	Listening	Reading	Speaking	Writing
① 英語の4技能（聞く、読む、話す、書く）で最も得意な技能は何ですか	69%	15%	12%	4%
	18人	4人	3人	1人
② 英語の4技能（聞く、読む、話す、書く）で最も苦手な技能は何ですか	15%	4%	19%	62%
	4人	1人	5人	16人

【得意な技能と苦手な技能への意識】

	とても好き	好き	ふつう	嫌い	とても嫌い
③ ①で答えた「最も得意な技能」は好きですか	15%	77%	8%	0%	0%
	4人	20人	2人	0人	0人
④ ②で答えた「最も苦手な技能」は好きですか	0%	23%	73%	4%	0%
	0人	6人	19人	1人	0人

	とても そう思う	まあそう 思う	どちらで もない	あまり 思わない	全く 思わない
⑤ ①で答えた「最も得意な 技」は、さらに得意にしたい ですか	4%	8%	23%	65%	0%
	1人	2人	6人	17人	0人
⑥ ②で答えた「最も苦手な 技能」は少しでも得意になり たいですか	70%	7%	23%	0%	0%
	18人	2人	6人	0人	0人

上記アンケートの結果から、児童は必ずしも「苦手」＝「嫌い」ではないことが言える。また「得意な技能」は、さらに得意にしたいとは思わないが、「苦手」なことは「少しでも得意になりたい」と思う傾向があるということがわかる。ただし、保護者や教員などの苦手克服への期待や方向付けといった外的要因が影響している可能性もある。尚、このアンケートを実施する際に、保護者の意見が児童のアンケートに反映しないよう同日同時刻に保護者と児童別々にアンケートを実施した。保護者アンケートの内容と結果は次の通りである。

【小学4年生～6年生の保護者22名のアンケート内容と結果】

	Listening	Reading	Speaking	Writing
①英語の4技能で、授業や宿題の様子から、お子さまの得意な技能は何だと思えますか	45%	45%	5%	5%
	10人	10人	1人	1人
②英語の4技能で、授業や宿題の様子から、お子さまの不得意な技能は何だと思えますか	0%	5%	45%	50%
	0人	1人	10人	11人
③お子さまに最も身につけて欲しい（得意として欲しい）と思う技能は4技能中、何ですか	0%	0%	100%	0%
	0人	0人	22人	0人

保護者向けアンケート結果から、子どもに身につけて欲しいと思う技能は全員がスピーキングだった。大味（2011）での大学生へのアンケートでも身につけたいと思う技能の1位にスピーキングがあがっており、日本人のスピーキングへの願望の強さを伺い知ることができる。

今回は、4 技能アンケート後、6 週間限定で「伸ばしたいと思う技能の授業」と題し、週 1-2 回で合計 8 回（オンライン授業 6 回、対面授業 2 回）の授業を行い、アプローチ方法が有効か否かを検証した。塾やオンライン授業が嫌、募集期間が短い等の理由により、アンケートを実施した 26 名全員が参加することはできなかった。参加した 8 名の概要は下記の通りである。

	氏名 (学年 性)	得意な技能 伸ばしたい技能	伸ばしたい理由
①	M.S (小 5, 女)	スピーキング リスニング	大人同士の会話を聞き取れないからその会話に入れない。もっと聞き取れるようにして大人と話したい。
②	H.T (小 5, 男)	リスニング スピーキング	外国に行った時に話せなかった。具体的な注文の仕方、学校のこと、会話での受け答えを何通りか知りたい。
③	K.W (小 5, 女)	リスニング スピーキング	外国の人ともっと話ができるようにしたい。ホームステイを受け入れた時に全く話せなかった。
④	C.T (小 5, 女)	リスニング リーディング	本を読むのが好きだけど英語では短文しか読めない。英語で有名な話を読みたい。
⑤	T.K (小 6, 男)	スピーキング ライティング	苦手だと思っている。何をどのように書いていいのかわかっていない。
⑥	W.O (小 5, 女)	リスニング ライティング	思っていることが書けるようになりたい。自信を持てるようにしたい。
⑦	N.E (小 5, 女)	リスニング ライティング	書くことに自信がない。文章を書いたことがないから書いてみたい。
⑧	K.T (小 5, 女)	リーディング ライティング	短文ではなく、思っていることや自分の考えを書けるようになりたい。

2.2 リスニングを伸ばすための授業

リスニングは、小野寺 (2016:12) は次のように指摘する。

第二言語習得の観点から、音読がリスニングに効果的であることを検証するために、まずリーディングとリスニングの関係性を考える。リーディング（読解）とは言語認知行為であって、言葉を知覚する読み手とテキストのインタラクションでもある (Eskey, 1986)。Goodman (1967) は、「読みとは書き手の文字表示としてコード化したメッセージを、読み手ができる限り再構築する心理言語学的処理」を指し、「効率的な読みとはテキストのすべての要素を正確に認知した結果ではなく、正しい推測を生むのに必要な最も少ない、生産的な手がかりを選択する技能の結果」と説明する。要するに、読み手が、選択的注意を働かせながらテキストの言語情報から、理解するための材料を不要なものを排除しながら集め、予測し、検証し、確認する作業を繰り返す心理的推理ゲーム (psycholinguistic guessing game) のように進めることである。

このことから、リスニングを伸ばすための授業では、語彙の意味も理解した上で増やすことから始めるのが良さそうである。今回は受講する児童の英語歴が浅いこともあり、英検 5 級用の単語集「でる順パス単」(旺文社)を使用して単語の意味を確認しながら繰り返し音読することから始め、次に、同じく英検 5 級用の教材(山田 2013)を使用し、そこに掲載されている会話例を音読した。最後に 2019 年度と 2020 年度の英検過去問のリスニング部分のみを使用してリスニングの成果をみた。授業開始時の児童の様子は、2018 年第 3 回英検 5 級の過去問を行ったところ、正解率は 68%だったが、2019 年度第 1 回英検 5 級過去問の正解率は 92%、同じく 2019 年度第 2 回の英検 5 級過去問は正解率 100%、2019 年度第 3 回の英検 5 級過去問は正解率 100%、2020 年第 1 回の英検 5 級過去問は 96%という結果となった。これは受講した児童もしっかり理解して問題を解くことができたと感じ自信となったようだ。リスニングの向上にはリーディングとスピーキングの学習とに明らかな相関があることがわかった。

【リスニング 授業計画表】

授業	内容	宿題
第 1 回目	英検 5 級「でる順パス単」単語練習	1 回目の授業の単語音読と録音提出
第 2 回目	第 1 章～第 4 章, 第 5 章～第 6 章	2 回目の授業の単語音読と録音提出
第 3 回目	英検 5 級「ひとつとつわかりやすく」	3 回目の授業の会話音読と録音提出
第 4 回目	本中の予想問題に書いてある会話練習	4 回目の授業の会話音読と録音提出
第 5 回目	第 1 回目, 第 2 回目の復習	授業で行った単語と会話の音読と録音提出
第 6 回目	第 3 回目, 第 4 回目の復習	
第 7 回目	英検 5 級過去問 (リスニングのみ)	解いた過去問の復習
第 8 回目	英検 5 級過去問 (リスニングのみ)	

【英検 5 級過去問実施した際の正解数の推移】

	英検過去問	正答率 (正答数/全問題数)
授業開始前	2018 年度第 3 回	68% (17/25)
第 7 回目授業	2019 年度第 1 回	92% (23/25)
	2019 年度第 2 回	100% (25/25)
第 8 回目授業	2019 年度第 3 回	100% (25/25)
	2020 年度第 1 回	96% (24/25)

2.3 スピーキングを伸ばすための授業

スピーキングについては、井上（2017:111）はリスニングやリーディングといった受容活動を通して蓄積された言語情報を使って、自分の考えを口頭で表現する活動であるとしている。また、高梨（2009）には、スピーキングは4技能の中で学習者が最も不得意とする技能でありながらも、最も身につけたいとする技能でもあるため、そのギャップを埋めるには、長期的かつ継続的な英語使用の体験を提供することが必要であると述べている。

以上のことをふまえると、6週間全8回という短期間での授業では目に見えての伸長を期待するのは難しいと想定されるが、今回は受講前の児童とのインタビューで話せるようにしたい具体的な内容を聞き、そこに沿う授業を行うことにした。ただし、それができるようになっただけではスピーキング技能が伸びたとは言い難いため、短い15のフレーズを児童たちの意向を入れて考え、それを「フレーズ15」と題し毎回授業開始時に暗唱してもらい、言い終えるまでの秒数を計測した。初めて「フレーズ15」を児童が読み上げた時は、2分05秒かかったが、最終授業では、「フレーズ15」は平均して25秒だった。

前述した児童の話したい内容とは2つあり、1つはレストランでの会話、もう1つはホームステイ時の会話だった。話したい会話の関連単語を全て書きだし、文章にして音読する練習から始め、繰り返し音声を聞いてもらった。練習するにつれて言いたかったことを言えている、と感じたようで、児童たちはかなり満足した様子だった。途中、児童から「天気・学校・家族」の会話もしたいと要望が出た。方法としては先に言及した通り、関連単語をあげて、文章にして音読練習と音声を繰り返し聞く方法で行った。普段の授業では、読むこと、書くことを嫌がる傾向が多い児童たちだったが、繰り返し読み方の確認をしたり、率先してメモを取ったり、とても積極的だった。苦手な他の技能が深く関わっていても学習意欲が勝っていると苦にならないことがわかる。

【スピーキング 授業計画表】

授業回数	内容	宿題
第1回目	フレーズ15 読み方練習	1回目の授業の音読と録音
第2回目	フレーズ15 練習	2回目の授業の音読と録音
第3回目	会話に関する単語書き出しと読む練習	3回目の授業の音読と録音
第4回目	フレーズ15 練習	4回目の授業の音読と録音
第5回目	レストランとホームステイの会話練習	5回目の授業の音読と録音
第6回目	フレーズ15 練習, 天気・学校・家族に関する	6回目の授業の音読と録音
第7回目	単語をあげ、文章にしていく	7回目の授業の音読と録音
第8回目	第1回目から第7回目の復習	

【フレーズ 15】

①	Really? Me, too.	⑨	I want to try. I'll try.
②	Why?	⑩	Can I see?
③	How about you?	⑪	Can I use?
④	That sounds good!	⑫	Come on !
⑤	That's my favorite.	⑬	Go for it.
⑥	Awesome!	⑭	Sure. OK. Of course.
⑦	I think so.	⑮	You're kidding.
⑧	Oh, I'm sorry.		

2.4 リーディングを伸ばすための授業

リーディングを伸ばす場合も、他の技能が深く関わってくる。井上（2017:110）は以下のように指摘する。

やはりリスニング指導と同様、スキーマの活性化に基づく3種の処理（ボトムアップ、トップダウン、インタラクティブ）の仕方を教え、スキミングやスキニングといった読み方に習熟させることが必要となる。（中略）処理を自動化させるうえで、音韻の符号化が不可欠であるため、シャドーイングのような活動が効果的となる。これは第一言語である母語で置き換えて考えても、読む際にスラスラ読めることで、内容が理解できるので同じように滑らかな音読がリーディングに効果的と言えるであろう。

今回リーディングの授業を選択した児童は、英語学習歴が長く、読書好き、名作を英語で読んでみたいという願望があることから、『アンデルセン名作選』の「はだかの王様」を題材として授業を行った。第1回目の授業では指導者が全文を読み内容を説明して概要を掴んでもらった。指導者が全体を読んだものを、ロイロノートの「資料箱」に入れておき、繰り返し聞いてもらった。授業では音読指導を行い未習得の単語については丁寧に意味と発音を指導した。初めの頃は慣れない単語に苦戦して、例えばp.67の74語を2分10秒で読んでいたが、授業の録画と全文の録音を自宅で毎日繰り返し視聴しながら音読の練習を重ねると、6週間後には同じ文章を48秒で読んでいた。また、滑らかに読めるようになってくると内容が自然と入ってくるようになったと児童が言っていた。授業では1文ごとに和訳することはせず、知らない単語を調べるのみとした。また、この物語は主な登

場人物が3人（皇帝、家来、織り手）と限られていたこともあり、皇帝は赤、家来は青、織り手は緑と色を決めて文中にマークして区別し、誰が何をしたのかを理解しやすいようにした。その結果、第8回目の最後の授業では音読をして和訳してもらったが、文中のhimやtheyが指しているものが具体的に誰であるのかを質問しても正解することができていた。リーディングには、リスニングに効果があるといわれるシャドーウィングのような方法がとても有効的だとわかった。

【リーディング 授業計画表】

授業回数	内容	宿題
第1回目	一度読んで聞かせ全体の訳をする	主な登場人物に印つける
第2回目	・2ページごとに区切り，読む	第2回目の復習，録音して提出
第3回目	・単語の意味確認は行うが訳さない	第3回目の復習，録音して提出
第4回目	・音声聞いて一緒に音読	第4回目の復習，録音して提出
第5回目	・音声は講師が読んだものを録音	第5回目の復習，録音して提出
第6回目	・授業はZoomにて録画，児童は視聴可能	第6回目の復習，録音して提出
第7回目	最初から通して音読	全文の音読練習
第8回目	読んで訳す，内容の質問をする	

2.5 ライティングを伸ばすための授業

ライティングの技能は、一見他の技能を利用しているのがわかりにくい。井上(2017:113)は以下のように指摘する。

書く活動であるとは言え、一定の時間、教師も生徒も黙ったまま、計画・執筆・再校のプロセスを繰り返すような教育環境が英語学習への動機づけに与しないことは明白である。書く意欲を高める教育環境をつくるうえで、他の技能との統合は必須である。

トピックを与える際に、指導者が幅広い話題を提示することで、アイデアが生まれやすく書く意欲をわかせていくことが必須だ。書き方その指導については、大里(2012)に、文字、単語、句、文レベルの筆写から始まり、語句の並べ替え、文章の書き換え、会話やパラグラフの並べ替え、和文英訳の順に指導すべきと述べられている。よって毎回授業では、テーマを決めてその基本文となるものを Robert Kinney (2011) から引用し、その文章を音読して筆写することから始めた。次に単語を変えて自分に置き換えて文章を作成した。

提出物には書いたノートと、文章を音読した音声を付けて提出してもらった。児童には提出前に、自分が書いた文章を声にだして3度読み上げることが徹底した。それは、書いた文章の文字間を見て読みやすさと読みづらさに気づいてもらうこと、文章の構成上での違和感に気づいてもらうこと、符号の見落としに気づいてもらうことを目的とした。巻末に資料として実際のノートのやり取りを一部紹介してある。

【ライティング 授業計画表】

授 業	内 容	宿 題
第1回目 自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて話し合い、基本本文を音読して筆写をしてから単語を変えて自分におきかえて文章をつくる ・できた文章は3度読み上げてから提出する ・書きたい事を書く 	第1回目に自分で書いたものを清書して提出。
第2回目 好きなもの		第2回目に自分で書いたものを清書して提出。
第3回目 過去形		第3回目に自分で書いたものを清書して提出。
第4回目 未来		第4回目に自分で書いたものを清書して提出。
第5回目 否定文		第5回目に自分で書いたものを清書して提出。
第6回目 助動詞 等		第6回目に自分で書いたものを清書して提出。
第7回目&第8回目		直しをして提出。

3 結果

全8回の授業で、第2回目の授業終了後、第5回目の授業終了後、最終授業終了後の計3回アンケートを実施した。受講している児童の様子や、気持ちの変化を知る上でこの3回のアンケートはとても有効だった。

質問内容	授業回数	とても楽しい	楽しい	ふつう	あまり楽しくない	全く楽しくない
①授業の感想	2回目	0%	75%	25%	0%	0%
		0人	6人	2人	0人	0人
	5回目	50%	50%	0%	0%	0%
		4人	4人	0人	0人	0人
	最終回	75%	25%	0%	0%	0%
		6人	2人	0人	0人	0人

質問内容	授業回数	とても多い	まあ多い	ふつう	少ない	とても少ない
②宿題の量について	2回目	0%	37%	63%	0%	0%
		0人	3人	5人	0人	0人
	5回目	0%	13%	74%	13%	0%
		0人	1人	7人	0人	0人
	最終回	0%	13%	50%	37%	0%
		0人	1人	4人	3人	0人

質問内容	授業回数	とても伸びている	まあ伸びている	かわらない	あまり思わない	全く思わない
③受講している技能	2回目	0%	13%	74%	13%	0%
		0人	1人	7人	0人	0人
	5回目	25%	62%	13%	0%	0%
		2人	5人	1人	0人	0人
	最終回	75%	25%	0%	0%	0%
		6人	2人	0人	0人	0人

宿題量は通常よりも多く、また宿題の提出期限も短いため負担に感じるのではないかと懸念したが、児童たちはそれ以上にやりがいを感じて積極的に取り組んでくれたことがわかる。また、実際に今回の授業を受講する前と比べて確実に「伸びた」と感じてくれたことから、このアプローチ方法は有効だったと判断している。

なお、最終回の授業後に、児童へ今回の授業の感想を自由に記述してもらった。以下に書の概要を示す。

	氏名(学年 性)	得意な技能 伸ばしたい技能	受講後の感想
①	M.S (小5, 女)	スピーキング リスニング	すごく聞きとれるようになった。早く英検に挑戦してみたい。単語をもっと覚えれば、もっと聞けるようにも話せるようになると思った。
②	H.T (小5, 男)	リスニング スピーキング	とても大満足。話したいことをどのように話したらいいのかを詳しく教えてくれたから楽しかった。もっとやりたい。
③	K.W (小5, 女)	リスニング スピーキング	楽しかった。長い会話はまだ自信がないけれど、あいづちや簡単な会話なら早く使いたいと思った。

④	C.T (小5, 女)	リスニング リーディング	できないかもしれないと2回目の時に思った。でも音声聞いて真似して音読していると読めるようになってきてそこからは楽しかった。別の話も読んでみたいと思った。
⑤	T.K (小6, 男)	スピーキング ライティング	楽しかった。自分には書きたいことがたくさんあるので書く前に箇条書きにまとめて書いてみることを知った。
⑥	W.O (小5, 女)	リスニング ライティング	楽しかった。宿題の提出も楽しかった。きれいに書けるとほめてもらえてうれしかった。
⑦	N.E (小5, 女)	リスニング ライティング	大変だったけど書くことは好きなので英語でも書くことが出来るようになって嬉しかった。
⑧	K.T (小5, 女)	リーディング ライティング	文のつなぎ方を知ることが出来たので楽しかった。英語で日記を書いてみようかなと少しだけ思った。

4 おわりに

4.1 結論

今回のアプローチ方法により、4技能は密接に関係していることがわかった。それはまた「4技能」は、1つの技能を単体で教えることは不可能だともいえるだろう。鳥飼・斎藤(2020:44)にも、「『四技能』をバラバラに切り離して勉強するのではなく、有機的に関連づけながら総合的な力をつけることです」と述べられている。

なお、今回受講した児童は、伸ばしたいと思った技能を「伸びた」と感じることができ、大変満足との感想だった。さらに「次は〇〇の技能を伸ばしたい」という意見が大半で、その後の通常授業では、とても意欲的に取り組むようになり、今回の「伸びた」という自信が結果的に学習意欲へ結びつくことになったと推測することができる。

4.2 今後の課題

4技能は密接した関係ではあるが、同時に伸びていくことは不可能である。それは言語習得において、受容能力(読む・聞く)が先に充実し、その後、発信能力(書く・話す)が見えてくるので時間差が生じるからである。保護者が最も期待する「話せる」技能は、英語学習においてあくまでも1つの技能でしかなく、その技能だけを教えていれば伸びるものではない。他の技能なくして伸ばすことは出来ないということを、児童そして保護者にも理解してもらえるように、今後は説明していく必要がある。また、2008年CEFR増補版では4技能に加えて「話すやりとり」「書くやりとり」「仲介」の計7技能を示しており、自分や相手の思考を整理し、伝えることが求められていることも、今後は指導する際に意識していかなければならない。

参考文献

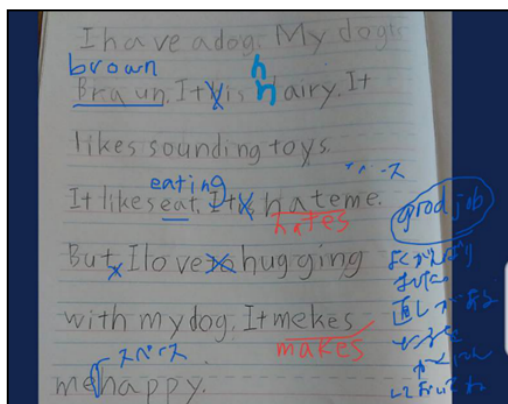
- 井上聡 (2017) 「4 技能の統合をめぐる議論 — 英語教師に求められる役割 —」, 環太平洋大学研究紀要 11, pp.105 - 115
- 旺文社編 (2012) 『英検 5 級 での順パス単』, 旺文社.
- 大里信子 (2012) 「ライティング」, 金谷憲 (編)『英語授業ハンドブック<中学校編>』, 大修館書店, pp.191-206.
- 大味潤 (2011) 「尚美大 1 年生の英語受容と そのニーズについての考察」, 尚美学園大学総合政策研究紀要 (20), pp.1-15
- 小野寺進 (2016) 「英語リスニング能力を高める方法 —発音記号と音読」, 21 世紀教育フォーラム 第 11 号, pp.11-19
- 高梨芳郎 (2009) 『データで読む英語教育の常識』, 研究社.
- 鳥飼玖美子・斎藤兆史 (2020) 『迷える英語好きたちへ』, 集英社.
- 山田暢彦 (2013) 『ひとつひとつをわかりやすく』, 学研教育出版.
- Andersen, H. C. (2012) *The Best of Andersen's Fairy Tales*, IBC パブリッシング株式会社.
- Robert, Donald & Michael Kinney(2011)*Stories for Young Readers, Book 1*, CreateSpace Independent Publishing Platform.

資料

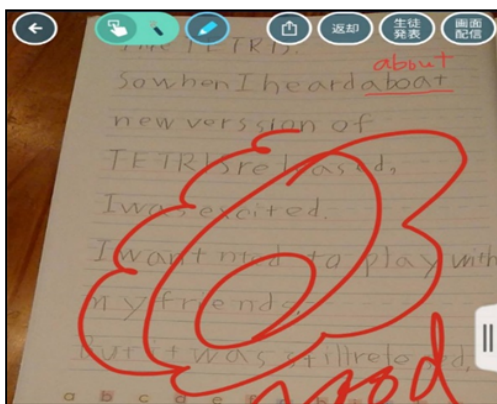
ロイロノートスクールを利用したライティングのやり取り

児童 T.K (小6, 男)

第2回目

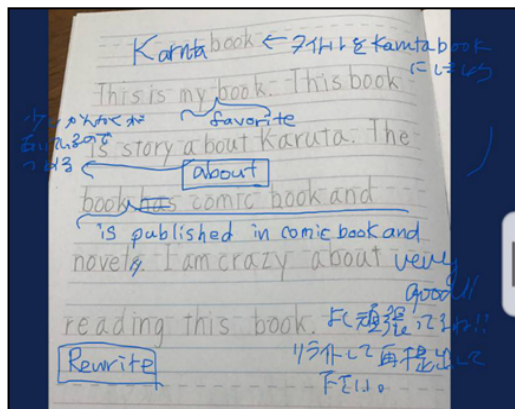


最終回

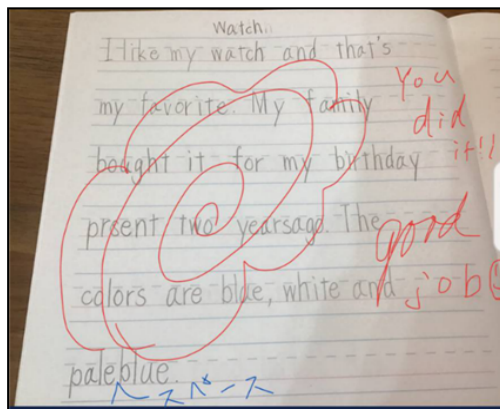


児童 W.O (小5, 女)

第2回目

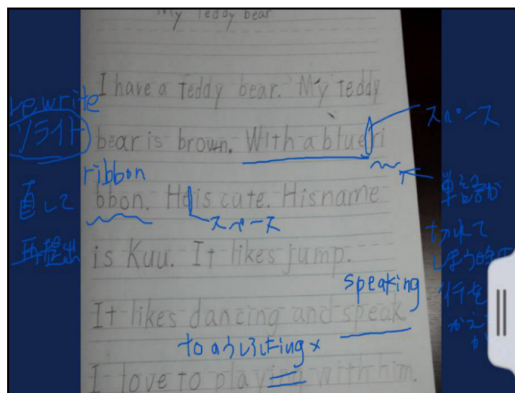


最終回

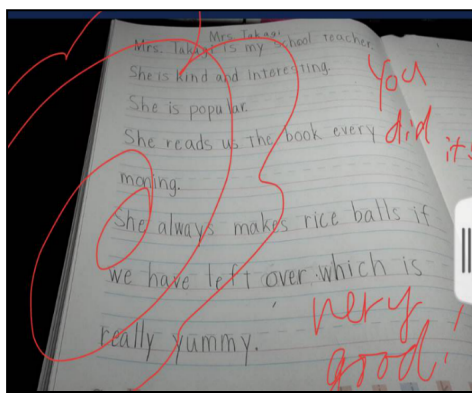


児童 K.T (小5, 女)

第2回目

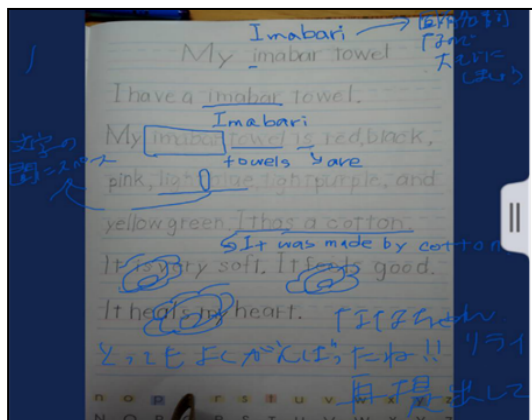


最終回



児童 N.E (小5, 女)

第2回目



最終回

